

7-10

利用者様に合わせたケアを目指して

職員の意識を高め「統一したケア」の実践を

意識改革

ケアの統一

特別養護老人ホーム 中央本町杉の子園

リスクマネジメント委員 菊地 愛

リスクマネジメント委員 若原 巧治

東京都足立区中央本町4-14-20

TEL: 03-3886-0002

E-mail: chuuhonchou-suginokoen@s6.dion.ne.jp

FAX: 03-3886-1600

URL: <http://www3.tokai.or.jp/suginokoen/index.html>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人新緑風会が母体である中央本町杉の子園は平成13年4月に60名の特養、短期入所生活介護10名でデイサービス、居宅介護支援、ヘルパーステーション開設、その後平成18年4月地域包括支援センターが開設された施設です。
地域に開かれ誰でも気軽にお越し頂ける施設を目指し、毎日活気にあふれている施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 事故に対する職員の意識の向上
- 統一したケアの徹底
- なくせる事故の減少

〈具体的な取り組み〉

- 過去1年間の事故報告書・ヒヤリ・ハット報告書の統計を出す
- ヒヤリ・ハット報告書に対するアンケートの実施
- ヒヤリ・ハット報告書の活用方法の検討・実施
 - ・ リスクマネジメント委員にて事故への危険が高いヒヤリ・ハット報告書をあげる
 - ・ ケース担当にて今後の対応を検討
 - ・ 各階グループディスカッションにて報告
 - ・ 各階申し送りノートへ記入
 - ・ 職員へケアの統一をする
 - ・ 個人記録へ利用者の様子を記録する
- 定期的に利用者への対応を見直し・検討する

〈活動の成果と評価〉

- 平成18年4月～平成19年3月までの事故報告件数は、合計468件(月平均39枚)であった
- 取り組み以前は、記入したヒヤリ・ハット報告書を1冊のファイルに入れ、職員が確認するのみであった
 - ↓
 - 統一したケアを行うことが出来ていなかった
 - 利用者担当のケース担当に対応を検討してもらう
 - ・ 利用者に対する職員の意識が向上してきた
 - ・ 事故に対する職員の意識が向上してきた
- 各階グループディスカッションにて報告
 - ↓
 - ・ 職員全員への周知が出来るようになった
 - ・ 意見交流が出来るようになった
- その結果、ヒヤリ・ハット報告書の提出枚数が増加
- 今まで提出されていた同様のヒヤリ・ハット報告書の提出枚数の減少に繋がった

〈今後の課題〉

- 取り組みを始めて2ヶ月の為、現在は極めて事故に繋がる危険の高いヒヤリ・ハット報告をリスクマネジメント委員が取り上げて行っている
 - ↓
 - ・ 全てのヒヤリ・ハット報告に対して行えるようにする
 - ・ ケース担当が率先して対応を検討出来るようにする



より統一された、事故の少ないケアが行われる